

## 第十一章 土地の地代——その性質と形成（三）

### 第三部 常に地代を生む産物と、時に地代が生じる産物——相対価値

#### 比の変動について

改良と耕作が進み食料が豊かになれば、実用や装飾に使う非食料の土地生産物への需要は必ず増える。したがって、改良の過程で起る相対価値の変化はひとつに絞られる。すなわち、時に地代を生む産物の価値が、常に地代を生む産物（食料）に対して持続的に相対上昇する。技芸や産業の発達に伴い、衣料や住居の材料、地中の有用な化石・鉱物、貴金属や宝石の需要は次第に強まり、これらはより多くの食料と交換され、言い換えれば価格が上がる。実際、この傾向は多くの品目で確認でき、外れるのは、偶発的事情で一部の供給が需要以上の割合で増えた場合に限られる。

切石の採石場は、周辺の整備と人口増に合わせて価値が上がり、近隣で唯一であればその伸びはいつそう大きい。これに対し銀鉱山は、千里四方に競合がなくても、所在国の発展と連動して価値が上がるとは限らない。採石場の市場圏は数里にとどまり、その小地域の開発度と人口に比例して需要が決まるのに対し、銀の市場は世界全体に広がる

からである。ゆえに、鉱山の近くの大国が成長しても、世界全体が同時に豊かにならなければ銀の需要は増えないことがある。たとえ世界が成長局面にあっても、はるかに高品位の新鉱が見つければ供給が需要を上回り、銀の実質価格（同じ量の銀で買える労働や労働者の主食たる穀物の量）は徐々に下がりうる。

銀の大口市場は、商業の発達した文明地域に集中している。

改良が進んでこの市場の需要が増え、供給が同じ割合では増えないなら、銀の価値は穀物に対して徐々に上がる。同じ量の銀で買える穀物が増え、すなわち穀物の平均価格は少しずつ下がる。

逆に、何らかの要因で供給の増加が多年にわたり需要の伸びを上回り続けると、その金属（銀）は次第に値下がりする。言い換えれば、改良がどれほど進んでも、穀物の平均の貨幣価格はじわじわと上昇する。

一方、その金属の供給が需要とほぼ同率で増え続けるなら、その金属で買える穀物の量は大きく、改良が進んでも穀物の平均価格は横ばいにとどまる。

改良の過程で起こり得る組み合わせは、おおむねこの三つに尽きる。直近四世紀を仏英の経験に照らしてみると、欧州市場では三通りすべてが、ここで示したのとはほぼ同じ

### 3 第十一章 土地の地代——その性質と形成（三）

順序で現れたことがうかがえる。